

科目名	地理	英語科目名	Geography
開講年度・学期	平成 27 年度・通年	対象学科・専攻・学年	1 L・1 R
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	2 単位	単位種類	履修単位 (60 時間)
担当教員	原 啓介	居室 (もしくは所属)	管理棟 3 階 (連絡教員)
電話	内線 1 7 3 (連絡教員)	E-mail	ysakairi@小山高専のドメイン
授業の到達目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育到達目標 (JABEE)	JABEE 基準
1. 地理学の基本的な見方・考え方を通して、地理学の面白さ、興味深さについて説明できる。	①		
2. 人文社会科学的な素養や視点を養い、幅広い観点から物事を理解し、比較・対照し、判断する過程について熟考できる。	①		
3. 科学的、客観的な論理展開について熟考できる。	①		
4. 国際社会に生きる日本人としての自覚と素養について熟考できる。	①		
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
到達目標 1-4 中間試験と定期試験、授業での作業課題や発表、自学自習課題の提出物において 60%以上の得点により達成とする。			
評価方法			
1. 授業内での作業課題・発表等 40%			
2. 中間試験・定期試験 (計 4 回) 40%			
3. 自学自習課題の提出物 20%			
授業内容			
【前期テーマ】地理は身近なモノ、地域をみる (見る、視る、観る、診る)、日本をみる			
1. 講義ガイダンス。地理とは何か?暗記科目か?工業高専生にとって必要のないモノか?			
2. 教科書・地図帳の使用方法。地理の世界。地理からみた地球、世界、日本、そして小山			
3. 地図とは何か①地図から世界をみる—地図の有用性と有意性—			
4. 地図の可能性②地図から日本、小山をみる—略地図の作成を通して—			
5. 北海道地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
6. 東北地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
7. 北関東地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
8. 南関東地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
9. 北陸・東山地域をみる…自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
10. 東海地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
11. 近畿地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
12. 中国地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
13. 四国地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
14. 九州地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
15. 沖縄地域をみる……自分と他者の“みる”ことの比較・対照を通して			
【後期テーマ】国際化社会、世界的視野、世界をみる			
16. 地球環境問題①地球白書レポート (1)都市編—21 世紀初頭の議論と現在の議論との比較・対照を通して—			
17. 地球環境問題②地球白書レポート (2)人口編—21 世紀初頭の議論と現在の議論との比較・対照を通して—			
18. 地球環境問題③地球白書レポート (3)食糧編—21 世紀初頭の議論と現在の議論との比較・対照を通して—			
19. 地球環境問題④地球白書レポート (4)環境編—21 世紀初頭の議論と現在の議論との比較・対照を通して—			
20. 地球環境問題⑤人文環境と自然環境の連動性—先進国・途上国・自然国—			
21. 地球環境問題⑥食糧問題 (1)食糧・食料の安全性に対する先進国と途上国の受け止め方の違い			
22. 地球環境問題⑦食糧問題 (2)食糧・食料の生産地に対する先進国と途上国の受け止め方の違い			
23. National Geographic 社の研究調査活動からみる世界①多くの研究調査活動から人間と自然の関係についてみる			
24. National Geographic 社の研究調査活動からみる世界③パチカン市国を事例に宗教と人間の関係についてみる			
25. National Geographic 社の研究調査活動からみる世界④熱帯雨林地域を事例に生態系の本質についてみる			
26. National Geographic 社の研究調査活動からみる世界⑤五大湖地域を事例に人間による環境改変についてみる			
27. National Geographic 社の研究調査活動からみる世界⑥先進国と途上国の格差の要因についてみる (自然的条件)			
28. National Geographic 社の研究調査活動からみる世界⑦先進国と途上国の格差の要因についてみる (人文的条件)			
29. National Geographic 社の研究調査活動からみる世界⑧数々の文明の崩壊と再生。日本の方向性についてみる			
30. 地理総括			

キーワード	地球、世界、日本、小山、地図、都市、自然環境、人文環境、先進国、途上国、比較・対照
教科書	二宮書店『新編 詳解地理B』、二宮書店『基本地図帳』
参考書	授業中に適宜紹介する
カリキュラム中の位置づけ	人文社会科学的な素養と視点を養い、幅広い観点から科学的考察を実践するための科目である
前年度までの関連科目	なし(中学社会)
現学年の関連科目	英語、国語
次年度以降の関連科目	倫理・社会、政治・経済、歴史、哲学、人間と科学
連絡事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理(学)や地理的な見方・考え方に暗記力や記憶力はたいして重要ではない 2. 授業・講義への積極的な参加を期待する—好きこそモノの上手なれ— 3. 目的・目標を持って受講して欲しい—地理は誰もが思考の武器とできる— 4. 知識と経験を基礎に、新たな知恵を導き出してほしい—「理論と実践」「机上と現場」の両輪の活用— 5. 国際社会の中で有用有意な議論のできる素養を養って欲しい —外国を理解することは日本を理解することにもなる—
シラバス作成年月日	平成 27 年 2 月 2 3 日